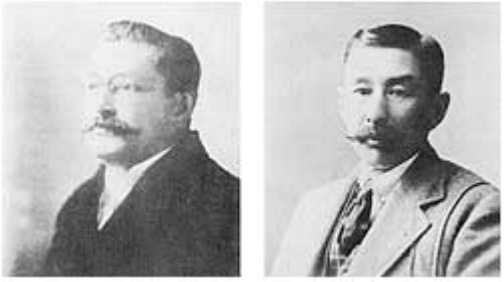
港区探訪

港区で発祥した物や事柄をご紹介する「はじめて物語」。最終回は「ラグビーフットボール（以下ラグビー）」です。
ラグビーは19世紀のイギリスで生まれた、サッカーとルーツを共にするスポーツ。スピード感と格闘技のような迫力を併せ持つのが魅力で、おもに冬の競技として親しまれています。そして日本でのラグビーの歴史は港区三田ではじまりました。

慶應義塾とラグビーの発祥

ラグビーが日本に伝来したのは明治32年の秋。この年、三田の慶應義塾大学に赴任してきたイギリス人英語教師のE・Bクラーク氏が学生たちに伝えたのが最初とされています。当時、大学内では野球などの屋外スポーツは秋冬がオフシーズン。クラーク氏の目には、学生たちが秋の素晴らしい天気の中で時間を持て余しているように映り、彼らにラグビーを教えることを考えつきます。
日本語がまだあまり上手でなかったクラーク氏は、ケンブリッジ大学で同級生だった実業家の田中銀之助氏にコーチを依頼し、共に学生たちの指導をはじめました。当初は、大学の校庭が手狭だったこともあり、麻布の仙台ケ原（現在の南麻布一丁目付近）の野原をグラウンドにして練習をしていたといわれています。



▲日本ラグビーの父 E・Bクラーク氏（左）と田中銀之助氏（右）。
（日本ラグビー史／日本ラグビーフットボール協会）

外国人チームと初試合

ラグビーを見るのも初めてだった学生たちもしだいに上達し、参加人数も増えてくると、明治34年に初の対外試合が行われました。相手は、当時の日本で慶應義塾大学以外に唯一ラグビーをしていた横浜の外国人クラブチーム。結果は学生たちの大敗でしたが、日本で最初のラグビーの試合として意義深いものになりました。

初の対外試合後、学生たちはますます意欲的にラグビーに取り組み、チームは本格的な体育会の部活へと発展していきました。
慶應義塾大学にラグビーが伝来してから約11年もの間、他の日本人ラグビーチームは存在せず、横浜の外国人チームが唯一の対戦相手でした。明治43年に京都の第三高等学校（京都大学の前身の一つ）で、翌44年に同志社大学でようやくラグビー部が誕生すると、ラグビーは一気に日本全国へ広がっていきました。

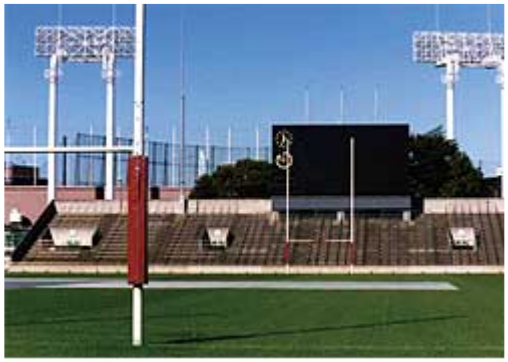
▲明治34年、対外国人クラブチームのメンバー。2列目中央にクラーク氏と田中氏。
（日本ラグビー史／日本ラグビーフットボール協会）

▲日本ラグビー発祥の地、三田の慶應義塾大学。

秋冬はラグビー観戦へ

その後、昭和4年に大阪に「花園ラグビー場」が、昭和22年には港区青山に「東京ラグビー場（現在の秩父宮ラグビー場）」がラグビー専用競技場として誕生しました。現在まで、日本のラグビーにはプロリーグはありませんが、高校ラグビーや学生・社会人のリーグが盛り上がりを見せており、今月フランスで開催されるワールドカップにも、日本代表チームが出場を果たしています。

これからの季節はラグビーシーズンの本番。10月にはトップリーグ（社会人ラグビーリーグ）の開幕戦が、今年で創立60周年を迎える秩父宮ラグビー場で行われます。今までラグビーに馴染みがなかった方も、今年はワールドカップで日本代表の応援や、秩父宮ラグビー場でゲーム観戦をして、港区発祥のラグビーを楽しんでみてはいかがでしょうか。



▲神宮外苑にあるラグビー専用競技場の秩父宮ラグビー場。

間もなく始まるラグビーW（ワールドカップ）杯日本代表を応援してください！

第6回ラグビーワールドカップ（W杯）が、9月7日に開幕します（開催地はフランス。開催期間は9月7日〜10月20日）。第1回大会から6大会連続出場となる日本代表は、世界の強豪相手に「2勝」をチーム目標に掲げます。大会直前の合宿で最終調整中のジョン・カーワンHC（ヘッドコーチ）にお話を伺いました。

私自身、ワールドカップにはすばらしい思い出がたくさんあります。選手としては、（第1回大会で）優勝したことが特別な思い出ですが、国の代表というミッションを背負って、チームが一丸となって目標に向かって行く、そういう雰囲気がすばらしい。あとは、開催国の文化に触れる喜びもあります。今回はフランスなので、食事とワインが楽しみです（笑）。
日本代表の選手たちは、どんどん進化しています。体格もスピードも昔とは違う。ここ最近取り組んできたことが成果として現れてきています。いまは、フィットネス（持久力）とメンタル面の強化、それにトライを取るための工夫に取り組んでいるところです。われわれの目標は史上最強の日本代表チームを作り上げること。長期的な目標に向かって前進しています。そのためには、勝って行かなければならない。今回のワールドカップも、参加するだけでなく、勝つことがとても大事なのです。
ラグビーは「人生」にちょっと似ていると思います。いつも前に進まなければならず、いつも周りのサポートを受けなければならない。われわれも同じです。常にファンの方々のサポートを必要としています。ぜひ、日本から声援を送ってください。

ジョン・カーワン（日本代表ヘッドコーチ）
1964年12月16日、ニュージーランド生まれ。
愛称は「JK」。1984年よりニュージーランド代表。1997年より3年間日本の「NECグリーンロケッツ」でプレー、2007年1月より日本代表のヘッドコーチ。母国では「英雄」として尊敬を集めている。
＜港区のみなさんへひと言＞
「ラグビーはエモーショナルな競技。自分もプレーに参加しているような一体感を味わえるはずです。ぜひ秩父宮ラグビー場に足を運んで応援してください。決してがっかりはさせませんから」

ラグビーワールドカップ 2007

A〜Dの4つの予選プールで総当りリーグ戦を行い、上位2チームによる決勝トーナメントで優勝が決まります。

プールA	プールB	プールC	プールD

イングランド 6大会連続6回目／前回優勝	**オーストラリア** 6大会連続6回目／前回準優勝	**ニュージーランド** 6大会連続6回目／前回3位	**フランス** 6大会連続6回目／前回4位
南アフリカ 4大会連続4回目	**ウェールズ** 6大会連続6回目	**スコットランド** 6大会連続6回目	**アイルランド** 6大会連続6回目
サモア 5大会連続5回目	**フィジー** 3大会連続5回目	**イタリア** 6大会連続6回目	**アルゼンチン** 6大会連続6回目
アメリカ 3大会連続5回目	**カナダ** 6大会連続6回目	**ルーマニア** 6大会連続6回目	**グルジア** 2大会連続2回目
トンガ 4大会連続5回目	**日本** 6大会連続6回目 ↑オーストラリアとウェールズが強豪	**ポルトガル** 初出場	**ナミビア** 3大会連続3回目

日本代表の試合は、日本テレビで生中継されます。時差のため放送は深夜になりますが、ぜひ生で観戦して、日本代表を応援しましょう！

日本テレビ放送予定
○9月8日（土）深夜0:05～ vs オーストラリア
○9月12日（水）深夜0:56～ vs フィジー
○9月20日（木）深夜3:55～ vs ウェールズ
○9月25日（火）深夜0:56～ vs カナダ
このほかにもJ SPORTSでは全48試合を生中継します。

写真提供・取材協力：慶應義塾、独立行政法人日本スポーツ振興センター、（財）日本ラグビーフットボール協会
参考文献：日本ラグビー史／（財）日本ラグビーフットボール協会、慶應義塾体育会蹴球部百年史／慶應義塾大学蹴球部黒黄会

▲このページのトップへ

Kissポート財団
(公益財団法人 港区スポーツふれあい文化健康財団)
港区赤坂4-18-13赤坂コミュニティーぷらざ
電話：03-5770-6837/Fax：03-5770-6884
お問い合わせ：fureai-info@kissport.or.jp
Kissポート財団について

ISO 9001
ISO 14001
JQA-QMA12663
JQA-EM4580
たいせつにしますプライバシー
10861140(03)

このホームページはKissポート財団の公式ホームページです。このホームページのすべての権利は当財団に帰属します。
当財団の許可なく複製、転載は出来ません。